

区政会館だより



「東京高輪海岸蒸気車鉄道ノ図」・歌川広重〈3代〉



しながわ水族館・トンネル水槽



品川浦・船溜まり

23区今昔物語～歴史を辿る 第3回 品川区

東京の表玄関に江戸の香り。今と昔が同居する水辺とにぎわいの街

昔から交通の要衝として栄えてきた品川は、人、物、情報が集まる街でもありました。今もその流れを受け継ぎ、東京の表玄関として機能する一方で、暮らしやすい街としても定評があります。

[23区今昔物語]

～歴史を辿る

第3回 品川区

東京の表玄関に江戸の香り 今と昔が同居する 水辺とにぎわいの街

古くから交通の要衝として栄えてきた品川は、現在も交通網が充実し、住・工・商が融け合い、絶妙なバランスで共存する活気ある地域となっています。街道・宿場、水辺、商店街、ものづくりなど多様な品川をご堪能ください。



ボードウォークの上をモノレールが走る (天王洲)



左/品川宿の入口から描いた歌川広重画「東海道五拾三次 品川 日之出」江戸時代後期、天保の頃の宿内は1600軒の建物、7000人の住民という活気ある街で御殿山の桜など江戸名所も多く、江戸庶民の遊興地でもあった。右/しながわ宿場まつり。

武蔵の国の表玄関

平安時代、現在の府中市近辺が武蔵の国の国府として栄えていた頃、府中と品川を結んでいたとされる品川街道(品川道)は、多摩川に沿うように南北に続いていました。品川街道は、六社宮(大國魂神社)の大祭に用いる清め水を品川沖でくむ品川海上禊祓式(みそぎはらえしき)に向かう神主たちが歩いた「いききの道」と呼ばれたり、奥多摩から材木を運んで多摩川を下り、その帰りに筏師達が歩いたので「いかだ道」とも呼ばれています。

江戸から一番目の宿場町

幕府を開く2年前、1601年(慶長6年)に徳川家康は街道整備で5つの幹線道路を定めました。そのなかで最も重要とされた東海道の1番目の宿場(親宿)が品川宿でした。

日本橋から約8キロ。海沿いのため眺めが良く新鮮な魚も食べられるなど、品川宿は江戸市民に日帰りの行楽地として絶大な人気を誇っていました。歌川広重の浮世絵には、海の見える品川の風景が描かれています。宿泊の場というよりも休憩や送迎の社交場として賑わったようです。江戸に入る大名行列も品川宿で休息して身支度を整えたといえます。

北品川や南品川の旧東海道周辺は、今も街道の道幅を残し、路地や寺社に宿場町の面影が見られ、住民によるまちづくりが進められています。

東京の表玄関としてネットワークが広がる

品川で交差する首都圏の交通

一方、東西に延びる中原街道は、虎ノ門から平塚郊外の中原に繋がる街道で、相州街道、小杉道、御酢街道とも呼ばれ、生産地から江戸への物資の輸送路としての役割を果たしてきました。江戸期の始め頃はまだ東海道が整備されておらず、小杉(川崎市)、中原(平塚市)に設けた御殿に行くため、徳川家康はたびたび中原街道を利用していたようです。江戸時代

の中原街道の道筋は、現在でも西五反田6丁目から荏原2丁目にかけてと、旗の台2丁目付近にその一部が残っています。

鉄道は明治5年に新橋―横浜に開通したのが初めてといわれていますが、実際はその4ヶ月前に品川―横浜間で仮開業したのが最初です。

そして現在、新幹線の品川駅、羽田空港、品川・大井埠頭などを近隣に擁し、陸・海・空路の要衝として重要な役割を担っています。

区内にはJR東日本、東京急行電鉄、京浜急行電鉄、都営地下鉄、東京メトロ、東京モノレール、りんかい線の14路線、延べ40駅があります。その結果、品川区内のどの場所からも、徒歩で最寄り駅に到達することができるようになりました。最近ではりんかい線による千葉方面へのアクセス向上や、群馬と小田原・鎌倉を結ぶ湘南ライナーの中継地(大崎駅)となるなど、東京の表玄関としてますます発展しています。



品川シーサイドフォレストを望む。りんかい線、モノレール、高速道路などの交通が交わる。



上/昭和40年の大崎駅。下/現在の大崎

明治後期の品川白煉瓦工場



世界レベルのものづくり

品川は京浜工業地帯として近代工業発祥の地です。洋式ガラス・耐火レンガ・セメダイン・トランジスタラジオ・カメラなど、さまざまな日本初の工業製品が

生まれました。現在も地理的な立地条件を生かし、企業・NPO・研究機関の連携により新たな「ものづくり」の潮流が生まれています。近代工業発祥の地にふさわしい日本初の一例を紹介しましょう。

<日本初の技術・製品>

- ガラス/明治6年、洋式ガラス工場「興業社」が日本で始めて設立。その後、品川硝子製造所と名を変えガラス技術の研究が進む。
- クリーム状洗顔料/昭和9年、東品川のロゼットが日本初のクリーム状洗顔料「ロゼット洗顔バスタ」を製造。
- オートバイ/昭和11年、北品川で国産ハーレー第1号「陸王」が完成。
- セメダイン/大正12年に国産接着剤の製造に成功。昭和13年には日本初の合成接着剤「セメダインC」を発売。外国製品を「攻め出す」との願いから「セメダインC」と名付けられた。
- 粘着テープ/昭和25年、広町の寺岡製作所が梱包用布粘着テープを国産化。
- カメラ/昭和23年、西大井の日本光学工業(現・ニコン)は日本初の精密小型カメラを発売。34年には一眼レフカメラ「ニコンF」で世界のニコンへ。
- トランジスタラジオ/昭和30年、東京通信工業(現在のソニー)が日本初のトランジスタラジオ「TR-55」を発売。世界初(米国)は僅差で逃す。
- テレビ/昭和40年、東品川の松下電器産業(現・パナソニック)が家具調デザインテレビ第1号「罐蔵」を発売。
- 磁気通帳/昭和51年、大崎の光村印刷が商品化に成功。航空券や小切手の変造防止技術など多数開発している。
- 自動車のヘッドランプ用異形レンズ/昭和55年、東大井の東芝硝子が世界初の量産に成功し、現在では国内シェアの4分の3を製造する。
- 人工雪/昭和56年、東品川の東洋製作所が世界で始めて天然に最も近い六角結晶雪を製造。

街の元気は商店街から

日本有数の商店街を持つ荏原地区

品川区内には商店街が107あり、駅の周辺には必ず個性豊かな商店街があります。特に荏原地区は武蔵小山商店街、戸越銀座商店街など有名な商店街が目立ちます。武蔵小山商店街は、都内で最も古いアーケードがあり、全長は約800m。客層は小中学生から主婦、サラリーマンまでさまざま。平日でも人が多く活気に満ちています。

また、中央区銀座から道路改修時にレングを譲り受けた縁から、日本で初めて「〇〇銀座」と名付けたという戸越銀座商店街は全長1.6kmにもおよび、400も

の店が軒を連ねています。

商店街活性化策として平成18年度から始まった「一番店発見プロジェクト」。区民投票5万票によって選ばれた40店をマイスター店として区が認定。行政が広報紙やホームページで個人のお店を応援するというユニークなものです。

また、それぞれの商店街には、アイデア溢れるオリジナル商品やイベントなどが目白押しです。オリジナルブランドの先がけでもある戸越銀座商店街のマスコットキャラクター「戸越銀次郎」は商店街を歩くと、「銀ちゃん」と声がかかるほど人気者となっています。もちろん弟分の「大崎一番太郎」も元気で



戸越銀座商店街



武蔵小山商店街。昭和22年に組合が設立され、31年に第1期アーケードが、37年には駐車場を設置。現在の駐車場は132台も収容できる。



上／人気のキャラクター「大崎一番太郎(左)、戸越銀次郎(右)」。
中／戸越ブランドの品々。菓子・ソース・時計などお土産にする人も。
下左／大崎ブランドのあんぱん。下右／明治2年に浜川あたりにあったビール工場で作られた日本最古のビールを再現した「品川醸造酒」。



荏原商店街で行われるジャンボ海苔巻きは長さ150mにも。



品川湊の名残をとどめる水辺の風景

中世の品川は、目黒川河口付近に推定される品川湊を中心に関東の表玄関として繁栄しました。情緒ある風景が残る品川浦は、40数年前までは由緒ある漁師町でした。品川駅から運河に向かって歩くと、釣舟や屋形船がたくさん碇泊している品川浦の船溜まりに着きます。江戸幕府はこの品川浦と御林浦(東大井)に対して、江戸城に魚介類を献上する任務を特別に与えていました。

最近では水辺に美しい風景がいろいろと誕生しています。中でも美しいといわれるのは、東大井にある勝島運河の護岸(立会川河口)です。春は菜の花、秋はコスモスなど四季折々の花が咲きます。「しながわ花海道」として、地元の商店街や町会、学校などが協力して草花を育てています。水辺は生活に潤いを与えてくれ、心を癒してくれます。道行く人もどこか優しい目をしていきます。

暮らしが潤う 水辺、公園、庭園 生き活きとした 品川区民のオアシス

品川区の公園にはさまざまなタイプがあります。私邸の跡地の池田山公園(五反田)や武家屋敷跡の戸越公園(戸越)、美智子皇后陛下の実家跡を公園にしたねむの木庭(五反田)、遺跡地を整備した大森貝塚遺跡庭園(大井)、林業試験場跡の林試の森公園(小山)、世界中の薬草が集められた星薬科大学薬用植物園(荏原)、水辺の公園として整備された東品川海上公園、勝島運河を埋め立てたしながわ区民公園には、450種、一万点の展示を有する本格派のしながわ水族館など。その多彩さに品川区の奥深さが伺えます。



立会川河口の勝島運河「しながわ花海道」



昭和30年当時の立会川河口

東品川海上公園。ボードウォークもあり、ドラマやCMのロケ地にも。



海底から魚たちを見ているような迫力のトンネル水槽が人気のしながわ水族館。イルカ、アシカショーに加え、アザラシ館もオープンして楽しさが増えた。



右/ねむの木の庭。左/プリンセスミチコのバラも素敵。

